

## 人の栄化

## はじめに

2018年6月から、みやま集会では、救いの3つの段階である「義認・聖化・栄化」を学びます。

救いとは、一言で言えば、人が神によって造られた本来の目的のとおり完成されることです。その完成のことを、「栄化」と言います。救いの入り口は「義認」、その入り口から入って完成に向かう途上は「聖化」、そして完成が「栄化」というわけです。

人が救いを受けるかどうかは、その救いの入り口に入るかどうかで決まります。聖書では、救いの入り口に入ることを、「神から義人であると認められる」と表現します。これを短く言ったのが、「義認」です。

では、人はどのようにしてその入り口に入るのでしょうか。また入ったらどうなるのでしょうか。聖書では9つのことを教えています。その9つのこととは、「再生、転回、信仰、悔い改め、告白、赦し、転嫁、子とされること、救われたことの確信」です。

こういうわけで、もし、あなたが伝道をしていて、救いとは何ですかと尋ねられたら、栄化のことを説明します。次に、どのようにして救いを受けるのですかと尋ねられたら、義認と9つのことを語ります。そして、救いを受けた信者はどのような生活をしたらよいのですかと尋ねられたら、聖化のことを答えるとよいのです。

聖化は、信者にとっては、その人の信仰生活そのものです。聖化は、信者になった日からこの地上の生涯を終える日、つまり、肉体の死を迎える日まで続きます。信仰生活においては、神のことばを学び、それを祈りつつ実行していくことがとても大切です。聖書のことばの中で、どの部分が新約時代の信者にとって指針となるのか、そのことも学んでおくと有益です。

そこで、みやま集会での学びの内容と順序を次のようにします。全部で5章です。

1. 救いとは何か＝人が神によって造られた本来の目的のとおり完成されること＝栄化
2. どのようにして救いを受けるのか、受けたらどうなるのか＝救いの9つの面
3. 救いの入り口に入ること＝「義人と認められる」＝義認
4. 信者は「義人と認められた」けれども、その人の内側には「罪の性質」は残ったままである。その人の内側が神の子にふさわしく実際に変えられていくプロセス＝聖化
5. 新約時代の信仰生活における指針とは

本日は、「第1章 栄化」です。

## 栄化

神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。(ロマ 8 : 30)

神が人に栄光をお与えになることを、短く「栄化」といいます。栄光を与えるとはどういう意味かということ、人は本来神の似姿として造られました(創 1 : 26)、その造られた本来の目的のとおり人を完成し、神の栄光を反映する存在とすることです。

この栄化は、人の構造と密接に関係しています。人は物質的部分であるからだ、非物質的部分である霊魂から成ります。神が本来お造りになったからだは、不死です。ですから、栄化のためには、今の私たちのこの死ぬべきからだ、不死のからだに変えられる必要があります。

そこで、栄化について、次のアウトラインで学びます。

1. 人の体の復活は、聖書が明確に教えている。
2. 復活の体を、聖書はどのように表現しているか。
3. 神が信者に栄光を与える、すなわち栄光の体をお与えになることは、神のみこころであり、信者に約束されていることである。
4. 信者個人レベルで復活の体を与えられることで終わりではない。人が地上の支配者であること、人が墮落前に持っていた権威を回復することが、人の栄化の最終ゴールである。

### 1. 人の体の復活に関する聖書の教え

#### (1) 旧約聖書から

- ① ヨブ 19 : 25~27
- ② ダニ 12 : 2
- ③ ホセア 13 : 14

#### (2) 新約聖書から

- ① ヨハネ 5 : 26~29
- ② I コリ 15 : 22~26
- ③ I コリ 15 : 51~53
- ④ I コリ 15 : 54~57

### 2. 復活の体についての聖書の表現

- (1) 霊的な体 (I コリ 15 : 34~44、51~53)
- (2) 体そのものが変化する (詩 16 : 10、使徒 2 : 25~31、I テモテ 6 : 16)
- (3) 生ける体 (I コリ 15 : 50~58、I テサ 4 : 15~17)
- (4) 傷のない体 (ユダ 24)

- (5) しみのない体 (エペ 5 : 27)
  - (6) 聖さが特徴である体 (コロ 1 : 22)
  - (7) 責められることのない体 (I テサ 5 : 23)
  - (8) 罪の性質による束縛から解放された自由な体 (ロマ 8 : 21)
  - (9) 神の御子ご自身のかたちと同じ体 (ロマ 8 : 29)
  - (10) メシアの復活の体に似た体 (I ヨハ 3 : 2)
3. 栄化は神のみこころである
- (1) 神の栄光の望み (ロマ 5 : 2)
  - (2) 信者には栄光が与えられることが決まっている (ロマ 8 : 30)
  - (3) 私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださる (ピリ 3 : 20~21)
  - (4) ご自身の御国と栄光とに召してくださる神 (I テサ 2 : 12)
  - (5) 主イエス・キリストの栄光 (II テサ 2 : 14) =今は、メシアが享受しておられるその栄光と同じ栄光の体。それを「得させてくださった」=信者には同じタイプの栄光が与えられることが決まっている
  - (6) 救いを受けるようになるために、【その救いは】キリスト・イエスの中にあり、とこしえの栄光とともにある (II テモテ 2 : 10)
  - (7) 神が多くの子たちを栄光に導く (ヘブル 2 : 10)
  - (8) この地上での苦しみの時が終わると、信者は、メシアにある永遠の栄光の状態の中に入れられる (I ペテ 5 : 10)
  - (9) 信者には将来の栄光が約束されている (II ペテ 1 : 3~4)
4. 人の権威の回復 (ヘブル 2 : 6~8)
- (1) 神がアダムとエバを造られたとき、神は人に地上の支配権をお与えになった。
  - (2) しかし、人がサタンの誘惑によって墮落したとき、サタンは地上の支配権を人から奪った。正当な支配権は、人にある。墮落後も地上の支配者は本来、人である。しかし、サタンはその支配権を不法に奪っている。それにより、サタンは「この世を支配する者」(ヨハネ 12 : 31)、「この世の神」(II コリ 4 : 4) と呼ばれる。
  - (3) メシアの再臨によって成就されることのひとつは、理想的な人であられるメシアがこの地上を支配することである。メシアによって地上の支配権が回復される。
  - (4) 人の栄化は、このようにして、地上の支配権の回復をもって完成する。

訂正 「2. 復活の体についての聖書の表現」の「(2) 霊的な体 (I コリ 15 : 34~44)」の中で、復活の体について、「霊的なからだ」(44節)と並んで、「40節では『天上のからだ』とも表現されています。」と説明しましたが、それは誤りでしたので、訂正いたします。

40節の「天上のからだ」は、原文では「天のからだたち」と複数形になっていて、41節の太陽、月、星々を指しています。星を観察することを「天体観測」とも言うように、これらは一般的にも「天体」と呼ばれます。

「死者はどのようにしてよみがえるのか、どのようなからだで来るのか＝死者の復活などあり得ない」(Iコリ 15:35) という主張をする人に対して、使徒パウロは、36節「愚かな人だ」とし、以下49節まで次のように復活について説明します(一部は直訳)。

箇所	対比：復活前の体	対比：復活の体
例話 36 37 38	(例えを用いて) あなたの蒔く物は、死ななければ、生かされません。あなたが蒔く物は、後にできるからだではなく、麦やその他の穀物の種粒です。	しかし、神は、みこころに従って、それに体を与え、 <u>おのおのの種にそれぞれの体をお与えになります。</u>
説明 39 40 41	(おのおのにそれぞれの体があることの説明) すべての肉が同じではなく、 <u>人間の肉</u> もあり、 <u>獣の肉</u> もあり、 <u>鳥の肉</u> もあり、 <u>魚の肉</u> もあります。また、 <u>天のからだたち</u> (太陽、月、星々の天体) もあり、 <u>地のからだたち</u> もあります。・・・(創世記 1:26→24→20→14) 天のからだたちの栄光と地のからだたちの栄光とは異なっています。	41 太陽の栄光もあり、月の栄光もあり、星の栄光もあります。個々の星によって栄光が違います。
死者の復活 42 43 44a	死者の復活も <u>これ</u> と同じです。 朽ちるもので蒔かれ、 卑しいもので蒔かれ、 弱いもので蒔かれ、 <u>魂的な体</u> で蒔かれ、	朽ちないものによみがえらせ、 栄光あるものによみがえらせ 強いものによみがえらせ、 <u>霊的な体</u> によみがえらされるのです。
説明 44b 45 46 47 48	(霊的な体があることの説明) 44b 魂的な体があるのですから、霊的な体もあるのです。 45 聖書に「最初の人アダムは <u>生ける魂</u> となった」(創2:7) と書いてありますが、最後のアダムは、 <u>生かす</u> (いのちを与える) <u>霊</u> となりました。 46 最初にあったものは <u>魂的なもの</u> であり、 <u>霊的なもの</u> ではありません。霊的なものはあとです。 47 第一の人は地から出て、土から造られた者ですが、第二の人は天から出た主です	48 土で造られた者たちはみな、この土で造られた者に似ており、 天の者たちはみな、この天から出た方に似ているのです。
結論 49 結論	私たちは土で造られた者のかたちを着たように、	天の方のかたちを着るであろう。(ロマ 8:29 「御子のかたちと同じ姿」)